



世界を温かくする力に

学校長 飯山 等

韓国の水原女子高校との学校交流は今年が2年目。昨年より1泊増やして、大谷大学の湖西キャンパスセミナーハウスで2泊、ホームステイを1泊お願いするという3泊4日の交流です。高2に進級する進路選択のとき、「宿題たくさん出すよ」、「レポートもたくさんあるよ」という交流担当のイ先生の言葉のシャワーを浴びて、それでもなお日本語重点クラスに進級してきた^{つよ}熱い勇者たち。通り一遍の交流にたくない、真に中身のある交流を、との水原の先生の、そしてその願いに真っ直ぐに応えようと、思いに共感し、熱を共有する本校の国際交流部の乾先生をはじめとするスタッフみんなの真剣な思いにあふれた、水原の21名と大谷の34名の若いのちが輝き弾けた、4日間でした。

交流初日の夕方、校務を終えて私は湖西キャンパスセミナーハウスに行きました。玄関を入ると6人の生徒が満面の笑みで私を迎えてくれました。こちらはその望外の歓待に大いに恐縮もし、でも嬉しくなり相好を崩しました。しかし、その一瞬のち、6人は大笑い。してやっつりの喜びようです。一人の生徒が「気がつきませんか?」といったずらっばい目で問いかけます。あっ、見覚えのある大谷の生徒。彼女らが水原の制服を身につけています。3人ずつ制服を互いに換えて身につけていると、種明かし。でも、それでもどちらがどちらか全く分かりません。そのことが、彼女たちにはとても嬉しいことのように手を取り合って喜んでいきます。私がそれほど熱く待たれていたのではないと、少し冷静になり、その楽しい誤解を通して考えました。一昨年、初めて水原女子高校を姉妹校提携のため訪問した折りに、その時の日本語重点クラスのある生徒から、「日本と韓国の高校生の違うところはどんなところですか?」と訊ねられたのを思い出して、いま、私がこの6人に同じ質問をしたら、彼女たちはどう答えるだ

ろうか、と。そして、その訪問の折に、「あなたは十分に韓国人に見られますよ」と、私の顔立ちを評して言われたことを、そのとき私は自然にとっても嬉しく感じ、そう感じた自分を、自身の中に温かいものが流れるような感覚とともに思ったことを思い起こしていました。

4日間の交流の最後のプログラムで、水原、大谷のそれぞれ何組かがその思いを発表してくれました。そのどれもが胸が熱くなる感動的なものでした。この欄ではその中の一つだけ、一部分を抜き出しての紹介ではもったいないので全文を紹介します。

「こんにちは。私たちは水原女子高校、日本語重点クラスのパク・ソウンとキム・ヘナです。今回の交流で両国の私たちはお互いの言葉を勉強し、文化を理解しながら、人を尊重することについて勉強しました。だから私たちの3泊4日は決して短くなかったし、みんなにとっても忘れられない思い出になったと思います。実は日本に来る前は、期待よりも、日本語も下手で、日本の文化にも慣れていないので大谷の皆さんに迷惑をかけるのではないかと心配がありました。でも大谷の皆さんが親切にしてくれて不安が消え、自信を持つことができました。また、他の国の学校を訪問して、お互いの国の文化が好きな友達ができ、その友達と共有できる素敵な思い出ができて本当に嬉しかったです。そのため、お別れのこの瞬間が本当に惜しく感じます。私たちは帰りますが、いつかきっとまた会えると思います。大谷の皆さんから教わった温かい心と思いやりを大切にしながら、これからどこかで会う他の多くの日本の友達にもその宝物を共有したいです。その一歩から、韓国と日本はもっといい関係になれると思います。私たちから始まった温かい思いやりは、世界を温かくする力になれると思います。そんなことを考えると、お別れのこの瞬間は、お別れではなく、私たちの未来のための始まりだと思います。4日間、お世話になりました。また会える日をお待ちしております。本当にありがとうございました。」